一業抄

特別
へ12
5127
11

并四 帝裏
并五 舞次
并六 [illegible]
并七 帰掌
并八 友禅

一葉抄第六

並四帝夏

巻名八詞と言ふ事なり是とて俱詞

[illegible]あり又言[illegible]なりて[illegible]

の意なりしきとあり源氏三十六

家の歌仙の事[illegible]又歌三巻[illegible]

東の陸奥

南の基[illegible]東八泉殿

[illegible]又花数墨[illegible]言の事なりや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊勢物語

いとゞ　和　おもひて

ものいとん　を　この世よりのほかにかなしかりける物かな

おりゐ物にてあるべきさまにもあらず　じぶしくなる

しきこゝろなりけり

これしも世よあるべきん事　まして世の義

事ばいとんとてまりて書かり

世をのがれぬる義　世代考しるべ

し義のかりそめにはむかしのすぐれる義の

事なれども　わといかり

家の節と忘し　家損

のぶるさのこゝろ　作こゝろ　作こゝろ　ぬ物なる

なしかくのみぬまゝなり

あくつひさ　物んがなるこゝろや

在清くもまぬ水にして　物より脇よあり女

ものそこさやこゝろ　こゝろぬもの

中將　しまめさ次　久世代世石表せん

ものとつ物しと思ひ物なりへし

物ねと物ぬ　ものの物こゝの具こゝ

物ものぬこゝ　義激脇とこゝなり

さましのうりたといふ人ありけるを
ものの
ものはかなくてのがれりや
ものしきをいとく　　中納言の君のあめをなを
の君ものくるさのんとて
ゆりてをり　　内のみやすんどころ
まやしゆるひるすると人をとりと
ありいうよりとゆぐとんいあるね
やうしゆりしゆりとも　　ゆりいてぬ
らはうくはえをとて
ゆうひゆく風　　まつはやしあり
りてをいつてをとて

あるうまのゆりゆりゆりとりをとて
いりまをを乗るを夜ちくそく
中将はいとうのの人まて　　夕雪ぬるて
ありゆりとしむ　　ゆりゆりとり
うるしてをくをくきりはり　　源氏の
早上の清ちくなり
かるくゆりあまをとをいひをんよ
ゆりの服若うゆりかるをんをいを人とを
なりを源氏のをををを清をて
をあるをんを
ゆりまをんをえをりをぬ　　をををりゆる

むろまちてのぬまにまうり
いつそくともハいめのこと集なり
右の中將ハ　春のうりの花ハ
ちらぬのぬまにいくあなり
中れの春ハくるしき中ハ　久春氏うり
ゆくえをしりすしてて　はんしの友氏
てもんをやうりの事ハ　ゆんん
このあたり昇りの海こと集なり
きまきたいへを　上のことをしたる
ふりとのあつまりよりて　信濃の事
とりてむうてもんといふ　西の氏と
ふりのうへ　あまま
みさをのてをやさまん　とうへりやう
おりてをやれんハ　みなきなきうれ
まうてんハよりうと　源氏のうた
りてうの　さとをいへこと
まをんれしまりよりてまり
夏之律　上旬より用りきと
うりてれ旬と秋の季　用氣すし
きりて出れしうよりあを世と
ハあまりまりて　りて月ハ
律よりくさりよ　付ての

[illegible]

[illegible]

この地よりさかり

やまとうた　　[illegible]

すしき　　和琴

いそとも地ことに　　むしろの文とゆ

くもりひさまりあり

山りすの中に　　和琴と八方万波

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一禄

[illegible]の目ありし濁書[illegible]書[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一禄

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のすゑ昇下ちゆく又昇下ち
こゝろましハ　引歌書
関ちりてくゝとも　世ちの事を人ちれ
めの前のちとゝ　ちる　関りとゝ
ふるの人ゝ　雅藤事ハ　ちゝ
ちゝ遠ち　又云むつ　めさま
りめちとゝ　ふるりや
おのちとりめ　ちてきちて
とハあり　ちぬ　ちゝ
ゝハ　ちの
ちゝ　ちく心ちゝ山

いちゝちゝ　ちるちんく新
ちゝん　むちの　ちゝ
あまりなり
ちさあり　ちゝ
ちゝちゝ　ちゝ
のちなり　ちの
而ちゝ
ちちあ　世ちの
ちゝ　源氏の
の　ちの
ちゝハ　ちの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女房の歩行

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅花とうじて

[illegible]

中将のさハいと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとゝよろこばるゝや　みくさのまゝに此池
の水ぬるゝいとゝ
月なき世にはと　あしの根をはらきるゝ
みなる淵にそこのこりなく
まつゝとひさしの浦八　よりとゝのゝ
ぬゝのゝりさゝとゝ　ゝいそあひゝんとゝ
ゝりゝ山さゝゝ　ゝ間ゝゝり
大川れの　みゝゝ時のゆく川のこのゝ
流のゝゝゝゝゝゝ　ゝれゝのゝを
りゝすゝゝゝゝゝゝ　ゝゝゝれ　ゝゝ先
ゝゝりゝえゝゝ　ゝぬゝゝり

ゝりゝかゝゝゝゝゝゝかゝゝゝゝ八　ゝゝの文
八書ゝゝゝゝ部ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
行ゝきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ふゝゝゝゝの事ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　近江義氏文
事ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

並び舞火

巻名を詠じて寄せ合して歌を添
氏長三十六歌の秋の付け先のう
ちより又四三首づつ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なりたるし給ふ吹物の巡りなんとて
中あの御の　久さりなり
以中将より　柏木
まさりて吹なり給へれ　なの母の御方
ひすてこよりなりより　めりしき御
らつ遊て三人　此中に弁少将まさりし
風のそと秋よ　秋風楽の名なり
清て引出す　和琴なり
弁少将やしらいてく　以中将のそそ
さ所に青の方わらに出しあるなり
すれよりまりひなり　なり秋なりしよ

きれなる方にあるとあり
清琴は中将に出せる　柏木
月夜の方なりよ　うえより源氏の清和
なりはなりを　ある人とも秋清すて
三ひなりの所にいてては　むりのの
そやはなりいの所なりかなりも
あ一方に出るや
服部をあられと同名　孫なる秋参
なりはなりひしなりなる
さ海くりてなりて　以中将なり
まりなりの人なり

[illegible]

[illegible]

垂穴野分

巻の名ハ[illegible]巻にして[illegible]

の第三十六[illegible]八月乃事[illegible]

又四三垂なり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八月ハ[illegible]の作き月あれ　[illegible]

のとい[illegible]ハさやうの作

三月[illegible]

いとをかしかりしやうなりし
ゆふぐれ　うつくしかりしかぎり
ぬくもりもとりあつめたる
ものとも　いとをかしかりしと
かつさらるるものとも　と書きて風ふかし
女の書きたるありしの巻のはしより
とりて　書きてよ南の行きたる
いとめでたきものよ　人ものよ
とりて又世の花さかりよ中宮より
はじめ　まことにあるまじきあり
ふりてはいとをかしかりさうな
とかりて　書きてくるものは
なほなほしい秋ハ　いとをかしかり
ものとも　大きなる　神ハ
神さへ　書きたる　花と風と
すきあれば　こそ　ものとも
風の音　きさり　文　ものは
のこそ　ものとも　風ふきつる
ものとも　こそしのつとり　をかしかりしと
こそ　ものとも　をかしかりしと

小すりしてうまとりのそくるの秋
すりてちらくハ上の字なりなへし
風うけよ岩くゝ　河　石蕪掃雲晴
赤々面　三祢詣　元ましてをりさやとをし
風のさしあくうまありさはなへをあて
まつしるも　久さりの秋者の名秋
をりとく名秋付て月はなへし
ゆくかたて　棟つゝこのつなはなへしをる
くてゆはなへとうりハのはなへ　さりを
をくてゆはなへまま事ちをりう
つゝハのはなへとをて

とをゆくゝ方の歩ゆをさはなへ
事ハりひ也と　いはくさりハ感者也裏
のしりとのこあゝ平さりこまさ古
ゆくくの歩ひしひ引こくさりを
をりとあのこはるとをり
中くすうらとくそ　円芽ハクさり
をりををとくしをり
人ゝはいまめやれ也ハ　久をり也
こをろりをりをり
をををををををすす　たさはなへはなへ
うまこゝはなへ庵の房　ゆゆりゝ人のへ

かくのごとくなりけり　日ごろ
乘ハまさかくあんとて
さてすしいとをみそしまさかろ
しあらしてかくくのごとく
浦ゑつくりさあけのごとくハ　ゆくら
みそしなりて
ゆくとしたてあれ而ハけれ人ゑん
なくこ二あり分と角けれとも
とやしなつかとく
ゑたくま　ゑハあるあり辺ゑうあ行くゆ
つさうしあり

らゆきあり　こゑれりきあり
人としてくあんけりさうハ　けんけれ
人ハくしとくらの行くの者ハあき
きとくのゆまつあり
おこりあひけて
おこりあとせかるあり　ゆるり風宅の
ひしのあいの面けくとしてて　ゆて
さけりゆまとゆゑうあ伝て
らとけくるハけくあんん　ゑたとけゑ
ことれ変てハゆしれあとけとて
ゆやけりゆの言のけて　ゆくの久ゆ

のあさぼらけ

やまとうたの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源氏のうへ日記

あけぬまつ雪と
の渚にの白くまさりたるとうらやましく
てさいてはいつかはかりの
む秋はたつてはけり

秋ぬ中そのみん

あはれ
みしてくさりもむ秋さくとて
あはみえさてもりの八
渚のと源氏のものぬまつ今
ゆしくさ見てはなぬ　あはれ
名月ぬ海ぬとなり
みちのうちよりいりさまか　中そのみん
渚方ちの事なり

とりわさてうへ秋ぬ　月ん
いとりまれて地りわさなとて
より一緑　月んさ
とうのひさいく見けるし　地りわさ
月さのちちりこ
こうりさりれ地　を　衣架しひぬ
地と引地りてきれなり礼のつて
いてはいめらしちなり
又ちちつかしてはくるとうやぬ
のりさを三りこされ
ちりよ蔵のちるり　い寄ちん結り

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出ぬ事ハ久さりの月なれ
下ろ[illegible]ハ　源氏よりひさ[illegible]
[illegible]下の句しなよ行ぬ月なれ[illegible]
あり[illegible]ひくひ[illegible]
いろひり　[illegible]
中将の下ろ[illegible]　[illegible]
[illegible]中将[illegible]下[illegible]
[illegible]前つ[illegible]
[illegible]と禁中[illegible]
[illegible]
花文綾ハ有花文綾　謝恵連

詩云　寒花遠方来遺我鶴文綾
[illegible]
云[illegible]
穀乃紋文[illegible]用[illegible]
いにの花[illegible]ハ鴨頸草の毛[illegible]
[illegible]花四[illegible]
[illegible]
むつ[illegible]
[illegible]　清仏[illegible]
[illegible]
姫君の清方に
[illegible]久さりの明石の姫君
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又ものゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]方より[illegible]

[illegible]

[illegible]

第七帖幸

巻名のこころ　光源氏君三十六歳乃十二月より三十七歳の二月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

西行法師ハ仏門ニ入ラントテ諸国
をめぐりしのち渋川の庵ニ住ス
さて四月ニ入てけさやうの
源氏の密道あり　　むかしより
りてなきされんと思ひ
ゆゑ四月ニなれハ
この四月ニ成ぬ
四月ニ成ぬ秋の来る月
ふれかしのこゝろ
野辺の草ハ仁徳天皇の御宇ニ
まりて代々ニ
と紀ハ延長七年十

二月ニ日本原野の草と横ニ
すれハ　　西来雁ニ
るゝひのこゝろ　　一説　西村中間ニ
さいの原ニ　　刈る
ゆゑあり　　さけの
調ゝ
あ
六年ニ日本紀延長
抱朝臣ニ
麹塵袍　と
と書ハ

女の腰袍と為て下重ハえび染
なり是ハ高砂つくりなる人とのすゝ
毎年かゝつて行つゝハのりしき玉りの
作りなり　玉の簪朝の装束のすゝ
ちつさ布のうち表ハ白くて文ゝとりぬ
裏ハ白のうへ紅の勝し餅袋
と付仁和寺門の前なし別まの大寄朝
のうち表ハ鶴と文よめのうちハ
裏朝のすゝ　市有花香
玉の簪
袋束ハ先御つくりの有同
袋束ハ先御つくりの有同
あつまの車
玉のすゝ
ちつさ布の
みつ〻ち赤女の　ちつさ布ハ
朝寝内裏寄ちつさ布と女
と玉つ〻ち紅の寄ち源氏のちつさ布
紅の寄ち赤色と着ちつさ布
あてけり人ハ三れ和ちつさ布
ちつさ布
源氏さくみ
て八ちつさ布
源氏君久寄寄ちつさ布

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

を 延長四年卯月の比 [illegible] 後
[illegible] 維一枝中[illegible]
[illegible] 例 [illegible]
[illegible] 作者 [illegible]
の体式 [illegible] 八 [illegible]
[illegible] 書 [illegible]
[illegible]
書 [illegible] の山 [illegible]
き [illegible] [illegible]
[illegible] 野の [illegible]

[illegible]
を 浄 [illegible]
八 [illegible] 仁和二年の昭宣公の
例 [illegible]
[illegible]
[illegible] 山 [illegible]
[illegible] 作者の [illegible]
八 [illegible]
[illegible]
[illegible] 作者のこゝろ
[illegible] 嘉字
[illegible]
[illegible]

宴をしたまへり　武勝と源氏の君と
のぼりて内侍をしまいりたんハ中文の
君へ使をしたて
そこなれ申しかたんハ　むろ〳〵ハ中文母
君の君すよりけうりをしたてのぼる
いてそこ申しそ　しくさんのうつを
めて殺をんそこしたさすすり
又君之　源氏しのれ文を君なる
きしまうてこしの君をとしたて
君之のあるすりあるとしたて
あるかさんの光ハ宮　あるねさたそ

殺しそこなりの日こいたんあ
そこなく　ハこめるこのすりまちをなる
そこ元ろさそこいあきそこけき
やしていなり
母君聞しあくなるこさりあ
殺文　母ハ三方ハ人ハ三ぬなる
そこ三方家をこくれたりれるこし
こしの君の君つあ　娘をしいたしハあ
こんん氏殿さりをしすをなさや
二ハ殺ハなるすあこハ　君文使をあ
ハこれそこまきそこすり人として氏殿

[illegible]

春日殿の御所へ[illegible]　源氏物語

[illegible]内侍殿[illegible]氏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家ゝさへ[illegible]ひめ　源氏より作れる
きゝめとゝ[illegible]　[illegible]の八ゝ[illegible]
八重野は[illegible]
[illegible]
ぬゝ[illegible]　一さゝ[illegible]
[illegible]すゝ[illegible]　時ての[illegible]
[illegible]ゆく[illegible]　世ゝのゝ[illegible]
ての[illegible]
[illegible]野の[illegible]
女官　四侍所の役人のゝ
[illegible]　[illegible]

四侍は二人あり又さゝぬ人を四侍
[illegible]のゝ[illegible]
家のゝ[illegible]　[illegible]
[illegible]家の[illegible]
[illegible]の[illegible]人は[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
いんのもとめて　元とんさけあと
て　祝をこしりしゆなり
やと問しかとも　むろの[illegible]源
氏のやうにあるべしとゆひかつ[illegible]
これんとこしく問あまりかり
じへかりかりや　源氏のむろまあ
[illegible]　[illegible]と問
[illegible]あせあまりかり
つまりさんの　[illegible]の[illegible]

[illegible]　むろのこのうろ
しいとこめかり
こまつき　こうあるかり
あるまよひはたりあるすしと　むろ
八三条の[illegible]　しまとかり源氏の[illegible]
のなりてもなりまぬこうあること
きこうしたりあるかり
三十二字の中　世の人よこのけらと三の
多批判をいりくまかのこくべあ
うくこうこと　猫しまうへうより　何よく
つろひ百なく[illegible]

かくれさきは　和　董は八分唐の言なり
あるはしの　一説　服衣なとに用ひる在例
ありけり　義兼なとに云き紅の色美
けるをめでたりと云ふ事なり　世の人の
めくるまでこそけれとうの言葉
すべて世間なり
あるべの袴　さ有と云程なり　紬し
こそ絹なりこゆり　紬の糸の
あれは八くりんよあるこの又なり
つこ　衣なるなつこ又衣はなし
おいこなり　たとへ　きはなこ事なり

かくれつこそこそ人は
こそ住なこと人なりこれは紬なる
なりさて紬ゆる見こそ人こそ元は
世方世人のこと世もなり
きこそこそしこもしや　はこそ人こそ
れこそのこそこもこきこなり
紬なのこ　主殿のこれこ常
見こなこ事なり
こそこえなり
ここそせりきん
つこりこなりこりこ
のこなれはこ
つまりこなりは
こりこりこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人三人とをり　源氏とをりあはせたまふ　玉鬘の
母君の若くらいの人をしたがへ
くるまを又先にたてゝ三りてうれく
をゆりはなまゝ人多をり
あやしきまでの人たち　次ぎ間の人
さやうのものとやうてあるべき
ひなびたるなり
さて御ぜんよりの御
とハとつてあるべきなれ
と　むかしの実父にてハ源氏の
御ぜんよりも程ゆへ多しとの
御方よ　源氏とをりあはせたまふ
あるべきよ　たくさんらぬ　二奥と云
御前の所〻　女房の御事なり
門侍者あるハなかしてそ　近江の若
の母君いの若さらい様とのうま
めあさりなまなり
かゝる方にてをくひなさ　さる方ハ
り腹のうへ　ゆゑあるべき
かゝる方にてをくひなさ　さる方ハ
り腹のうへ　ゆゑあるべき
日本紀書一云　天照
大神踏賢庭而形隠殿者沫雪以纏
散　上業にてをくひなさ　をくひハをくを意とあ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

並八藤袴

巻の名名ことなる次源氏の君六十七歳
の八月九月比事あり又隠逸
内侍督殿の事　内侍督殿
内侍督殿文ばかりの人にて
ありけるとはいまさらしめて見ること
り侍従宰相の奏しいまはのつかひ仕
しあまへし　御中よりつかはせる
ものを織とつくりかけてありさて
女仕のうせにたるものしるしてし
元人りるすもあへ　ものしるの
ものとしおりまるもあへりけり

秋方八月くれぬれば　御中宿にて
ゆりの花ちるあまりに事あり
四位さうのくもさてまりる　源氏
のうしろのかたの中にて金ばかりなる
はなをいへとなりけるとなり
ものの　光源氏の御つかひ女仕をしもさら
はなりて人のようにあるはりんとのつ
あひ女の侍て
三条の方ことなる
ようにもてなしの侍服の女にて出
なりはなりてのはり侍宰相にてなり
宰相中将　久方宰相と言て見

[illegible]の間にて行
[illegible]
とまりこゆやうあり　こころのゆ
[illegible]なり
[illegible]服者の奏綸すかさり
[illegible]
むらしぐれ久雪の
野ぶのあさぐ
[illegible]事
[illegible]
源氏
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]月[illegible]八月
なり三月[illegible]
[illegible]の奏[illegible]
[illegible]八月廿日[illegible]
[illegible]除服八日[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]ひ[illegible]と又實文
あり書[illegible]文[illegible]ろしまを仕[illegible]ハ源氏
あひめ[illegible]しと[illegible]やあり[illegible]と[illegible]
[illegible]ていろ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ源氏の[illegible]作[illegible]
[illegible]をやむ[illegible]ちゝ[illegible]
の[illegible]久[illegible]りの源氏[illegible]
[illegible]ま[illegible]りうゐと[illegible]院の
[illegible]ひ人さらのみなさの
[illegible]ひ[illegible]を[illegible]日[illegible]
[illegible]ろ[illegible]　宰[illegible]ま[illegible]熟[illegible]宰[illegible]あ

[illegible]ハ[illegible]ま[illegible]りの[illegible]
[illegible]あ[illegible]の[illegible]人の[illegible]
[illegible]宰[illegible]ま[illegible]
文仕人の[illegible]
[illegible]ひ[illegible]

[illegible]の[illegible]
あ[illegible]の字一[illegible]

曲[illegible]り

[illegible]
源氏の[illegible]文仕人[illegible]の[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

月さへハ　の月といひしかと
手ぶさへて　玉藻の浦とを
ふりさけ見ハいとゝ
秋もいとゝ
なかゝらと世ゝの人ゝ
りのみよ　意の秋あ
宰相の君　ものいとゝなり
あやなさとひ　先方の中ゝ
こゝあいのうなと
きうとゝ
いり方に付て

双中ねのとゝ

先方のゝ
とゝ
山ゝ

花ハ山ゝの
南ゝ晴のゝ
いりゝ山ゝ道と
未先方とゝ
このゝ
才まゝとなり
ゝゝの事と
ゝなりゝ

伊ゝ
ハいりゝ
ゝハあ
伊ゝなり
ゝこの
ゝ先方
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

兼香殿と年波のけうのうちに
恋ふい君　嬉女ものり
行くる　年より多くとうく　姫（キウハ）
ちゐの浦すかひのうく　むつりく浦
わたはいくせとり
年の恋りく　むつ月方よあら女唐なり
浦ちくとくとりぬまく事をなくて
月はなぬ中なぬり
数ちくけるひをせまく　月はいと
とけるうのいのとうとんちかい
まりくき月とくきまぬけ分り

とあれむしのうちり
明日さ決えりとりくを　えるへきり
あまつのよるうりこすぬとをとん秋
三月はかりなり
みな恋ほくさくあ　へあるく　うしまり
はるうのきの浦ちくとのをまり
きつりくしかりんとり
分りて日ひよむ　唐は蓼八月
むりくさくとりて　書法の
ちとくとうとう法方とんい
うくうくりんとのうなり蓼ひりさ

くゝ毛ハ上ゝ中ゝ下ゝ有り

むろゝと毋ハ所定

ゆゝ中ゝ有りしさものゝ八又宮ゝ

中ゝ下ゝ及ハさ毋ハ所ゝ有り

ゆゝ下ゝ有ゝ毋ハ